

令和2年8月5日

各国公立大学長 殿

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム
議長 北川 源四郎

数理・データサイエンス・AI 教育の現状調査に関するアンケートのお願い

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム^{※1}では、文部科学省から拠点校・協力校として選定された国立大学32大学並びに公・私立大学（短期大学を含む）約50大学（令和2年6月時点）が連携し、我が国の数理・データサイエンス・AI教育の普及・発展に向けて、モデルカリキュラムの作成・普及、教科書シリーズの企画・編纂、eラーニング教材・講義動画等の公開、教育用データベースの構築・公表等に取り組んでいます。

この度、本取組の一環として、数理・データサイエンス・AI教育に関する全国の大学の状況をより正確に把握するため、全ての国公私立大学を対象としてアンケートを実施させていただきます^{※2}。

ご多忙中誠に恐れ入りますが、下記によりご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

記

1. アンケート様式は次のウェブサイトからダウンロードをお願いいたします。
http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/questionnaire_2020.html
2. ご回答は令和2年9月7日（月）までに電子メールにてご提出ください。その際、メール件名を「【回答】数理・データサイエンス・AI 現状調査」としてくださるよう、お願いいたします。
3. 提出先メールアドレス：cerist@mi.u-tokyo.ac.jp
（上記により難しい場合には、お送りする様式を郵送でお送りいただくことでも構いません。）

※1 関連ウェブサイト

- ・数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム
<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/index.html>
- ・文部科学省「大学の数理・データサイエンス教育強化方策について」の公表について
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/080/gaiyou/1380788.htm
- ・AI戦略2019（令和元年6月11日 統合イノベーション戦略推進会議）
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/ai_senryaku/pdf/aistratagy2019.pdf

※2 本調査は、平成30年に実施させていただいた「数理・データサイエンス教育の現状調査に関するアンケート」（http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/suggestion_report.html）の第2回目となります。

（本件問合せ先）

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム事務局
〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院情報理工学系研究科
情報理工学教育研究センター
E-mail：cerist@mi.u-tokyo.ac.jp

数理・データサイエンス・AI 教育の現状調査について

1. 目的

全国の数理・データサイエンス・AI 教育の現状を把握し、課題の抽出等のための客観的資料とするとともに、数理・データサイエンス・AI 教育の時系列的变化ⁱを把握することを目的としています。

2. 本調査における数理・データサイエンス・AI 教育の意味について

数理・データサイエンス教育について、文部科学省「大学の数理・データサイエンス教育強化方策について」では、「数理的思考やデータ分析・活用能力をバランスよく修得させるような教育内容とすること」及び「専門分野における応用展開や社会における課題解決等に活用できる数理的思考やデータ分析・活用能力を育成する必要」とされています。

本アンケートにおける数理教育については、上記を踏まえ、いわゆる数学専門教育ではなく、線形代数、微分積分、確率・統計などのデータサイエンスの基礎となる数理的方法の教育と捉えご回答ください。

データサイエンス・AI 教育については、データサイエンス・AIの要素を含む広い範囲を指すものとし、文系・理系を問わず、また入門レベルを含んだ、データを活用して分析や予測、あるいは意思決定ができるようにすることを目指した教育と捉えご回答ください。

3. 調査の対象

全国の国立、公立、私立の全大学を対象としています。

4. 調査データの取り扱い

調査データは統計処理を行ったうえで、数理・データサイエンス・AI 教育の現状把握、時系列変化の把握、及びコンソーシアムのミッションであるモデルカリキュラム（スキルセット、参照基準）の作成、教材作成、教育用データベースの構築の目的だけに用いるもので、個別の大学名を挙げて議論したり公表したりすることはありません。

調査データの統計分析が実施できた段階で、その結果をご協力いただいた大学にフィードバックいたします。

i 本調査は、平成30年に実施した「数理・データサイエンス教育の現状調査に関するアンケート」の第2回目となります。前回の調査結果は、以下のウェブサイトからご確認いただけます。

http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/suggestion_report.html

数理・データサイエンス教育状況調査報告書